JAFXボーツWEB

2019JAF北海道ジムカーナ選手権第4戦 JMRC北海道SPARCOアウティスタジムカーナシリーズ第4戦 JMRC全国オールスター選抜第4戦 THIBAULT TARMAC ATTACK [JAF公認No.2019-8206]

開催日:7月21日 開催場所:オートスポーツランドスナガワ 格式:準国内 主催:THIBAULT「クラブ登録No.加盟01102]

フォト/加藤和由 レポート/ JAFスポーツ編集部

快勝の米澤匠ロードスター、全日本後半戦に向け、確かな手応え

年は全7戦で行われるJAF北海道ジムカーナ選手権は、シリーズを折り返す第4戦が、7月21日、オートスポーツランドスナガワで開催された。

夏本番の中での開催とあって、当日は日差し が強く照り付ける酷暑の下での一戦となり、こ の高温が影響したか、クラスによってはヒート 1のタイムが優勝タイムとなるなど、両ヒートのタイムが拮抗するコンディションとなった。

PN-1クラスでも、北海道から全日本を追う 米澤匠選手が1本目のタイムで逃げ切った。2本 目はパイロンタッチ2本を取られてタイムダウ ンした格好だが、生タイムでも1本目には及ば なかった。

「頑張りましたよ!。ただ実は仕様変更してもらった足回りが先日届いたばかりだったんで、今日は暫定の仕様で走ったんです。正直、どうしたらいいんだこれ?って状態だったんですけど、とりあえず勝てて良かったな、という感じですね。

内容的には良くなかっ たですけど、クルマは去 年ぐらいの戦闘力にはち ょっと戻りつつある感じ はしてきたんで、全日本の後半戦も頑張りたいですね」と米澤選手。たしかな手応えを掴んだ様子だった。このクラス、2位にはロードスターRFを駆る長南明宏選手が入り、ZC33Sスイフトの宮本雅樹選手がFF勢最上位となる3位に入賞している。

暫定仕様の足回りで試行錯誤するも、全日本レ ギュラーの貫禄を見せて優勝の米澤匠選手。

「今日は気分よく走れました」と振り返った SH1クラスの阿戸幸成選手も、ヒート1のタイムで逃げ切っての優勝。しかし、しっかりと2本ともベストで上がって第一人者の貫禄を見せた。2番手にはDC2インテグラの金内佑也選手、3位にはEK9シビックの福浦売選手、と北海道期待の若手スラローマーが続いた。

R-ecoクラスは今大会一番の接戦が展開された。ヒート1、まず1分40秒995を叩き出して暫定首位に立ったのは大川龍之介選手のNCP13ヴィッツ。しかしこのクラスはヒート2に入るとタイムアップが相次ぎ、まず田中雄大選手が40秒449をマークして逆転。そしてマーチ12SRを駆る西山直登選手が40秒267でさらにベストを更新する。



SH-1クラスは、ただ一人、1分27秒台に乗せるタイムをマークした阿戸幸成選手がオーバーオールウィンを達成。













1.R-ecoクラスで優勝の大川龍之介選手。2.86&BRZクラスでは高野一徳選手が映勝。3.R-1クラスでは千葉翔太選手が圧巻の走りを見せて3連勝を決めた。4.PN-1で3位入賞の宮本雅樹選手。5.SH-1で3位入資の福浦売選手。6.日中雄大選手はR-ecoで3位入賞。7.吉原友貴選手はR-1で3位入賞。8.山口武人選手は86&BRZで3位入賞。9.PN-1で2位入賞の会内佑也選手。11.R-ecoで2位入賞の西山直登選手。12.R-1では阿戸滉多選手が2位に入賞した。13.今年から新設のジムキタクラスでは久乗遠市選手が優勝した。14.水野洋選手は86&BRZで2位入賞。15.R-2では井上愛選手が2位に入賞した。16.R-2クラスは笠原康彦選手が逆転勝ちを収めた。





しかし大川選手も意地を見せて40秒118と西山選手を0.149秒凌いで再逆転。シーズン3勝目をマークした。「スナガワはそこそこ走っているんですが」という大川選手。「でも今日もまだビビッて踏んで行けないところがありました」と結果とは別に、走りに関しては納得いかないという表情。このクラスも今後の成長が楽しみな選手が揃うだけに、お互いに切磋琢磨し合ってほしいところだ。

R-1クラスは目下、2連勝中という絶好調男の 干葉翔太選手が、2番手を3秒近くも引き離す圧 倒的なタイムで快勝した。同じロードスターに 乗る米澤選手のタイムを目標にして走っている、 という干葉選手は、「次戦では、今日より少しで も米澤さんに近づけたら、と思っています。全日本で戦えるようになりたいと思っているので、高みを目指してこれからも頑張ります」と、意欲を見せた。

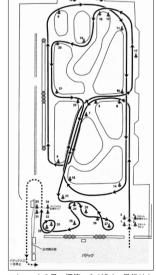
86&BRZ クラスは7台がエントリー。BRZ に 乗る高野一徳選手が、自らマークした暫定ベストを1秒近く縮めて、前戦に続いて優勝を果たした。「アクセルを踏むことだけを考えてスタートした」という高野選手は「気持ちよく走れました。ただ、まだまだ改善できるところがあるので、もっと速く走れるように頑張ります」とひとこと。

このクラスは、今回は2位に沈んだものの、 開幕2連勝を遂げた水野洋選手と高野選手のマッチレースの様相が濃くなってきた。R2クラス

> は、「サイドブレーキが全然 決まらなくて、最後はサイド 使わないで頑張りました」と 振り返った笠原康彦選手が優 勝した。

> なお選手権のコースの一部 を変更して、初心者が覚えや すい設定で走れるオープンク ラスのジムキタクラスは、 JN15パルサーを駆った久乗 遼市選手が優勝を飾った。





ストレートを目一杯使いながらも、最後はお 決まりのパイロンスラロームが待ち受ける。1 分 $30\sim40$ 秒ほどの長さとなった。



17. R-eco クラス入賞の皆さん。18. R-1クラス入賞の皆さん。19. 86&BR クラス入の皆さん。20. PN-1クラス入賞の皆さん。21. SH-1クラス入賞の皆さん。